

修 理 仕 様 書

1. 事業名称

九州国立博物館における列品の本格修理事業

2. 事業趣旨

九州国立博物館（以下、「当館」）が所蔵もしくは保管する有形文化財（以下「列品」）を永く次世代へ伝えとともに展示等博物館活動の充実を図るため、修理を行うものである。

3. 事業概要

列品の芸術的、歴史的または学術的価値を損なわないよう適切な方法及び材料を用いて本格修理を行う。なお、修理にあたり必要に応じて科学調査を行い、修理前後・途中の記録、報告書を作成する。

4. 修理作品

事業番号：県 1

所 蔵 者：英彦山神宮

分 野：金工

列品番号：zz12939

指 定：重要文化財

名 称：金銅装板笈

作 者 等：（作者）津村太郎次郎作

員 数：1 背

時 代：室町時代・元亀 3 年（1572）

材 質：木製漆塗・金銅・鉄・裂

法量 cm：総高115.0 背板高70.0

背板幅50.5 足長50.0

付 属 品：壇板 1（縦53.8cm 横33.7cm）

作品概要：藤の蔓を屈曲させて外枠とし、上半に板を張り、両端を外に開いて足とした板笈。背板の表面には茶地牡丹文緞子を貼り、上方に金銅随神鷹、下方に金銅阿吽の獅子をそれぞれ相對させて飾る。背面を黒漆とし、左右の緒には牡丹唐草毛彫の金具を嵌め、梓木には金銅添板と輪宝文金具を各所に打つ。肩から足にかけて背負帯を付け、背面上下左右の四カ所に麻緒の根緒を出す。付属の壇板は、黒漆地に金銅魚子地牡丹文毛彫角金具を打ち、中央に金銅長方形板金を張る。



5. 修理予定工期

36 ヶ月

6. 予算規模(税込)

¥20,764,000

(内訳) 令和8年度 ￥8,088,000

令和9年度 ￥7,914,000

令和10年度 ￥4,762,000

7. 損傷状況

- ・全体に汚れが付着しており、特に裂や背負帯に顕著である。

〔漆工部分〕

- ・漆の艶の減退が見られるが、漆塗膜層の剥離などは少なく、一様に安定した状態である。
- ・枠の木材は全体に虫損が著しく、大きな虫穴や陥没が見られる。
- ・右脚の足の付け根部分は旧修理により布着せを行い漆を塗布しているが、経年により漆塗膜の亀裂と剥離が生じている。

〔金工部分〕

- ・錆が生じ、特に金銅部分では本来の色調が失われている。
- ・留金具や鰭に嵌められている金具は欠失している箇所がある。
- ・壇板は銘板を固定する釘が一部欠失しており、銘板が浮いている。

〔裂部分〕

- ・背板に貼られた裂の右上が大きく欠失している。
- ・背負帯が接触する部分は特に傷んでいる。
- ・欠損や亀裂が生じた裂の小口には、織り糸のほつれや捲れが生じている。
- ・裂の浮いた部分は表面が摩耗し薄くなっている。
- ・使用時に垂直に立てられるため、背板から浮いている裂がずり落ち、下部にたるみが生じている。
- ・背負帯は、三つ編み状に組んだ植物繊維を芯材とし裂で縫いくるんだ形状であるが、向かって右側の方は芯材が露出している。
- ・最表層の緞子裂の下に無地裂が見られるため、緞子裂が当初のものかどうか不明。
- ・裂の損傷や縫い目の解けのため下方にずれた部分が見られる。
- ・背負帯の左側下部の取り付け部分が切れ、テグスで固定されている。

8. 修理方針

- ・解体は行わず、全体のクリーニング、漆工部分の木材強化と補填、金工部分で必要があれば進行性の錆の除去および防錆処置の検討、裂と背負帯の整形と補強等を行う。
- ・修理に使用する材料類はすべて素性の明らかなものを用いる。
- ・欠失した鰭金具は復元製作する。
- ・保存箱と展示用の支持具を新調する。支持具は笈を立てて展示可能なものとする。
- ・仕様の変更等が必要となる場合には、当館修理担当者へすみやかに報告し、関係者合意のもと進める。